

事務事業名		市誌編さん事業			会計	一般会計			
H27担当課等名		歴史研究所		H27係等名	総務係		H26係等名	総務係	
基本計画上の位置づけ		政策	6	地域の自然・歴史・文化を活かし続けるまちづくり					
		施策	61	地域資源の発見・資産化					
目的	対象(誰・何を)	市民			対象指標	指標名及び単位			26年度数値
	意図(どうい状態にするか)	飯田・下伊那の歴史を知る。				飯田市の人口(人) (H26.10.1推計人口)			102446
	向上させたい上位施策の成果指標	活用できる状態が整った地域資産の数							
目標	種別	指標名及び単位			26年度計画	26年度実績	27年度計画	28年度見込み	備考(指標変更など)
	成果指標	一般向け図書の配布・販売数(単年度)『飯田・上飯田の歴史』『みるよむまなぶ…』『いとなむはたらく…』『満州移民』『森本家』等			800	1208	900	600	ジュニアライブラリー3、オーラルヒストリー2を刊行した場合
	成果指標	子ども向け図書の配布・販売数(単年度)『水引のまち飯田』等			50	44	250	80	ジュニアライブラリー3、オーラルヒストリー2を刊行した場合
定性目標									
事業概要	<p>リニア時代の到来を見据え、当地域の個性や地域アイデンティティーを形成する地域資源を資産化し継承する。地域の歴史が消え、または大きく姿を変えてしまう事態にあり、そのような場合にも、確かですっきりした過去を見つめなおすことができるものとして、継続的な刊行事業に取り組む。</p> <p>自分たちの地域を知り、地域を大切に思う心の醸成を目的に、本の刊行で終わらない多面的で永続的は事業とし、調査・研究事業の集約の場として位置づけ、地域史料集『飯田下伊那地域史料叢書』と単位地域史叙述の二つを柱とする出版事業に取り組み、地域の歴史を深める活動として継続していく。</p> <p>1 『飯田・下伊那史料叢書』 ①基礎史料(「地域史料」に包摂できないもの) ②地域史料 2 地域史叙述 ①単位地域の全体史 ②テーマ史 ③飯田市一帯の概説書</p>								
事業内容					名称		活動指標		
26年度事業内容	かけがえのない飯田の歴史を継承し、市民への還元を図るために、多面的で永続的な編さん事業として、地域から要望の多い出版物を刊行する。 『飯田・下伊那史料叢書近世史料編2 勤向書上帳』の刊行 江戸時代における飯田藩の政治および行政システムをうかがうだけでなく、飯田藩領に展開した村落・町場・寺社の統治や運営の問題、飯田城や武家屋敷など藩のインフラ管理の問題、藩領内の農業・経済・流通・身分の問題など、多岐にわたる論点を考える上で重要な史料となる。 単位地域史で包摂できない広範な事実を知るうえで基礎資料編となり、市民による歴史研究や学習に大いに役立つものである。 256ページ A5判 並製本 500部				1 出版部数		1 500部		
事業コスト		25年度決算額	26年度予算額	26年度決算額	27年度予算額	特定財源内訳、補足			
事業費計(千円)①		2,573	768	663	4,992	その他: 出版物売却却 663千円			
国庫支出金									
県支出金									
起債									
その他		2,502	495	663	600				
一般財源		71	273	0	4,392				
人件費計(千円)②		7,152		5,722					
正規職員所要時間		2,000		1,600					
臨時職員所要時間									
総事業費①+②		9,725	768	6,385	4,992				
事業内容・目標達成状況の振り返り	『飯田・下伊那史料叢書近世史料編2 勤向書上帳』の刊行した。単位地域史で包摂できない広範な事実を知るうえで基礎資料編となり、市民による歴史研究や学習に役立つものである。市民への普及のため、『飯田・上飯田の歴史』関連の出前講座を開催し、市民の自己学習の展開につなげた。								
改革改善の考え方	①問題点	『飯田・上飯田の歴史』を刊行したことで、市誌編さん事業が終了する印象がある。							
	②改革提案	刊行物の継続的な出版と教育事業を通じて広く市民に還元することにより、地域の歴史に対する関心をより高める。当地の歴史を次世代の担い手である子どもたちに伝えるため、小中学生・高校生向けのジュニアライブラリー3を刊行する。							